

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3140412号
(U3140412)

(45) 発行日 平成20年3月27日(2008.3.27)

(24) 登録日 平成20年3月5日(2008.3.5)

(51) Int.Cl.

H04R 1/08 (2006.01)

F 1

H04R 1/08

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2007-10204 (U2007-10204)
(22) 出願日 平成19年12月20日(2007.12.20)(73) 実用新案権者 705000640
後藤 将彦
神奈川県横浜市泉区上飯田町4728-1
O
(72) 考案者 後藤 将彦
神奈川県横浜市泉区上飯田町4728-1
O

(54) 【考案の名称】音響反射板

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】楽器のライブ演奏で、自分の楽器の音が聞こえずらい問題を解消する。

【解決手段】(1)板状の物である。(2)板のいずれの方向の寸法も、管楽器7の場合はベルの直径以上、その他の楽器は、10センチメートル以上である。(3)中心にマイクロフォンヘッド部6の直径以上の穴2を配置する。

(4)マイクに装着したとき、マイクの上下左右部に、音響反射部1が位置する。上記の構成を備えた音響反射板をマイクロフォンに装着することにより、音響設備のモニターを使うことなく直接自分の音が聞こえて、演奏に集中でき、より豊かな表現で演奏が出来る。

【選択図】図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

以下の構成を備えた音響反射板

(1) 板状の物である。

(2) 板のいずれの方向の寸法も、管楽器の場合はベルの直径以上、その他の楽器は 10 センチメートル以上である。

(3) 中心にマイクロフォンヘッド部の直径以上の穴を配置する。

(4) マイクに装着したとき、マイクの上下左右部に、音響反射部が位置する。

【請求項 2】

前記穴には、マイクロフォンのネックをつかむ溝を設けた、請求項 1 に記載の音響反射板。 10

【請求項 3】

前記板は、無色透明素材を使用した、請求項 1 に記載の音響反射板。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、楽器演奏に関して、モニターするための音響反射板に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

楽器のライブ演奏のモニターリングは、音響機械や、フロアスピーカーなどを介して、演奏者に自分の音が聞こえるようにするものとして、実用上十分であった。 20

【特許文献】特許公開 2007-34057 号 広報

【考案の開示】**【考案が解決しようとする課題】****【0003】**

しかし従来のモニターシステムでは、ステージの場所や、多くの音響設備が必要であり、マイクのセッティングなどに時間がかかる上、本来の音を聞くことが難しく、ハウリングをおさえる専門知識が必要であることを課題とするとともに、他の楽器に演奏者の音が、かき消され、演奏者が自分の音が聞き辛く、音程のコントロールが難しいうえ、必要以上に、強く演奏をしてしまい、よい演奏が出来ないことを課題とする。 30

【課題を解決するための手段】**【0004】**

この課題を解決するための請求項 1 の考案は、以下の構成を備えた音響反射板

(1) 板状の物である。

(2) 板のいずれの方向の寸法も、管楽器の場合はベルの直径以上、その他の楽器は 10 センチメートル以上である。

(3) 中心にマイクロフォンヘッド部の直径以上の穴を配置する。

(4) マイクに装着したとき、マイクの上下左右に、音響反射部が位置する。

【0005】

請求項 2 の考案は、中心にマイクロフォンのネックをつかむ溝を設けた、請求項 1 に記載の音響反射板。 40

【0006】

請求項 3 の考案は、無色透明素材を使用した、請求項 1 に記載の音響反射板。

【考案の効果】**【0007】**

本考案により、狭いステージや、最小の音響設備でも自分の楽器の音がモニター出来ると同時に、後ろの演奏者にも音が聞こえ、楽器の本来の演奏が可能となる。

【考案を実施するための最良の形態】**【0008】**

図 1 音響反射板の正面図である。

- 1 は、音響反射板である。
- 2 は、マイクヘッド直径より大きな穴である。
- 3 は、マイクネックの直径サイズの溝である。

この例では、音響反射板 1 の前面が、音響反射部になる。音響反射板 1 にはこの他に裝飾のための部分のように音響を反射しない部分があってもよい。

外枠の形は円でなくてもよい。中心にマイクヘッド部直径より大きな穴 2 があいてあり、さらにマイクネック直径のサイズの溝 3 を設ける。この溝 3 により、音響反射板 1 がマイクから外れない効果がある。溝 3 は 1 個でも複数でもよい。マイクのネック後の種類に応じてさまざまな寸法や形状にしておくともよい。

【0009】

10

図 2 音響反射板の A-A 断面図である。

【0010】

図 3 は本考案の音響反射板の使用状態のしゃし図である。

- 4 は、マイクスタンドの一部である。
- 5 は、マイクネックである。
- 6 は、マイクヘッドである。
- 7 は、サキソフォン本体である。
- 8 は、サキソフォンベル部である。
- 9 は、マイクロフォンケーブルである。

音響反射板 1 は、図 3 のようにマイクヘッド 6 を穴に通した状態で使用する。溝 3 はマイクのネック後をつかむようにして音響反射板 1 を固定する。溝 3 を設けることにより、振動などで音響反射板 1 が落下するのを防止する。溝 3 がマイクネック後をゆるくつかむようにすると、マイクの角度に関係なく音響反射板 1 の音響反射部が重力でほぼ垂直に向く。この面が楽器の音を演奏者の方向に反射するのに最適な角度になる。音響反射板の素材は、板状のものであればよい。請求項 3 の無色透明の素材を使うことにより、客席から目立たなくすることが出来る。

20

以上の説明はサクソについて行った。しかしトランペット、トロンボーン、クラリネット、フルート、ハーモニカ、ヴァイオリン、ギター、ベース、太鼓についても同様の効果がある。この音響反射板の形状は丸でも四角でも三角でもかまわない。しかしいずれの方向の寸法も管楽器の場合は管楽器のベルの直径以上、その他の楽器は 10 センチメートル以上であることが好ましい。楽器の発する音を効果的に反射するためには楽器の種類に応じたサイズの音響反射板を選択するとよい。

30

【産業上の利用可能性】

【0011】

本考案に係る音響反射板は、工業的に量産する事が可能であるため、産業上の利用可能性を有する。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】 音響反射板 正面図

【図 2】 音響反射 断面図

40

【図 3】 音響反射板の使用状態のしゃし図である 音響反射板 1 は、図 3 のようにマイクヘッド 6 を穴に通した状態で使用する。溝 3 はマイクのネック後をつかむようにして音響反射板 1 を固定する。溝 3 を設けることにより、振動などで音響反射板 1 が落下するのを防止する。溝 3 がマイクネック後をゆるくつかむようにすると、マイクの角度に関係なく音響反射板 1 の音響反射部が重力でほぼ垂直に向く。この面が楽器の音を演奏者の方向に反射するのに最適な角度になる。音響反射板の素材は、板状のものであればよい。請求項 3 の無色透明の素材を使うことにより、客席から目立たなくすることが出来る。

【符号の説明】

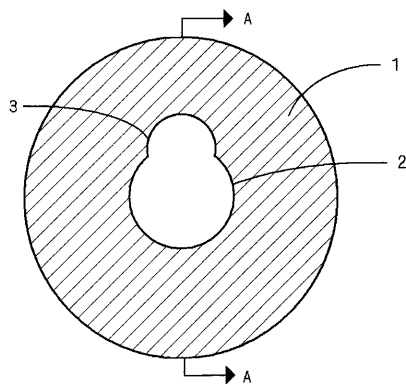
【0013】

1 音響反射板

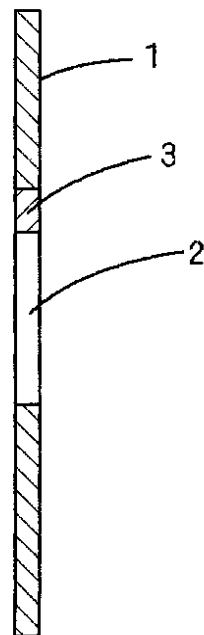
50

- 2 マイクヘッド直径より大きな穴
- 3 マイクネックの直径サイズの溝
- 4 マイクスタンドの一部
- 5 マイクネック
- 6 マイクヘッド部
- 7 サキソフォン本体
- 8 サキソフォンベル部分
- 9 マイクロフォンケーブル

【図 1】



【図 2】



【図 3】

